

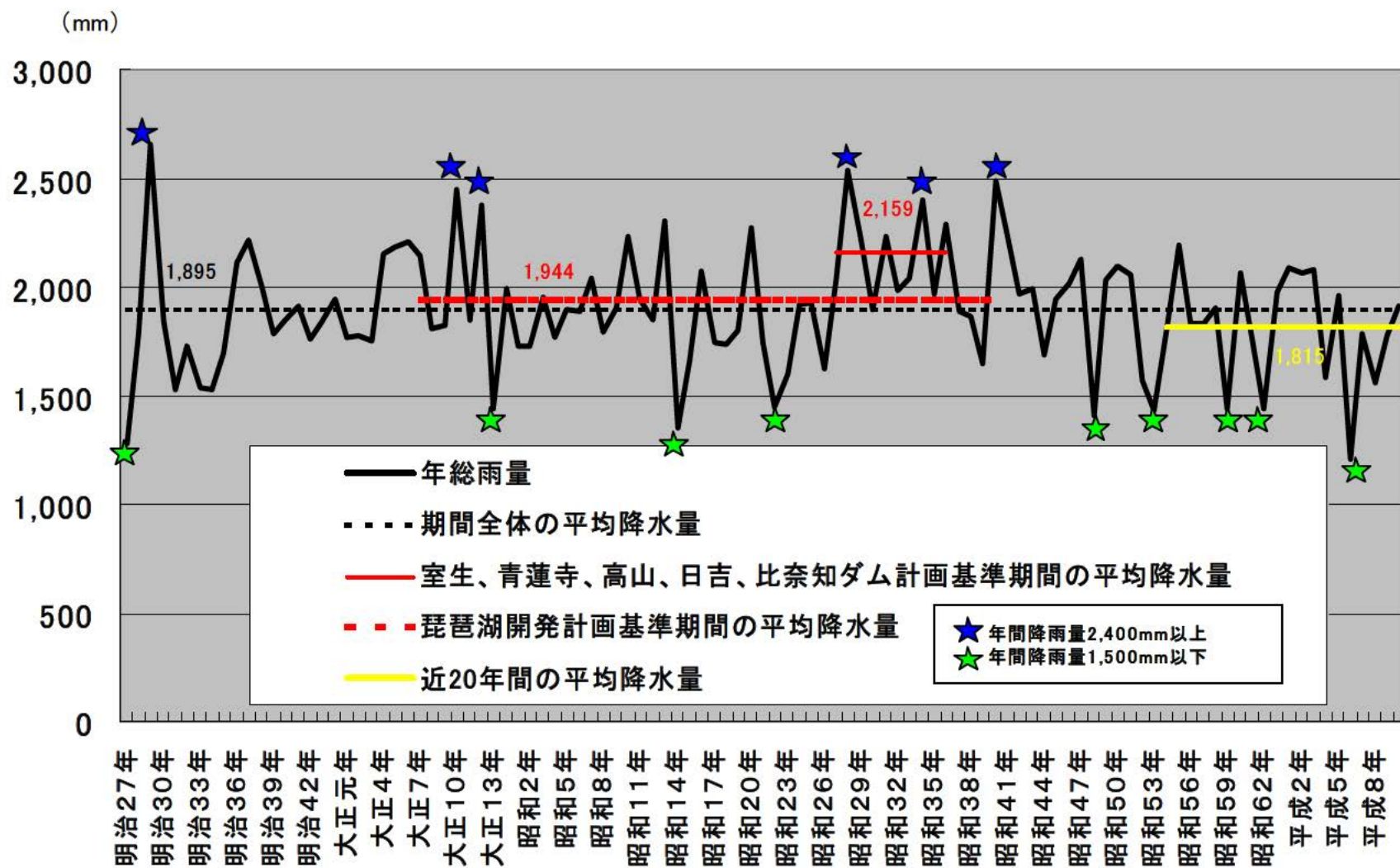
第4章 現在の施設の 水供給(確保)能力

第1節 降雨状況

1. 年降水量の変遷

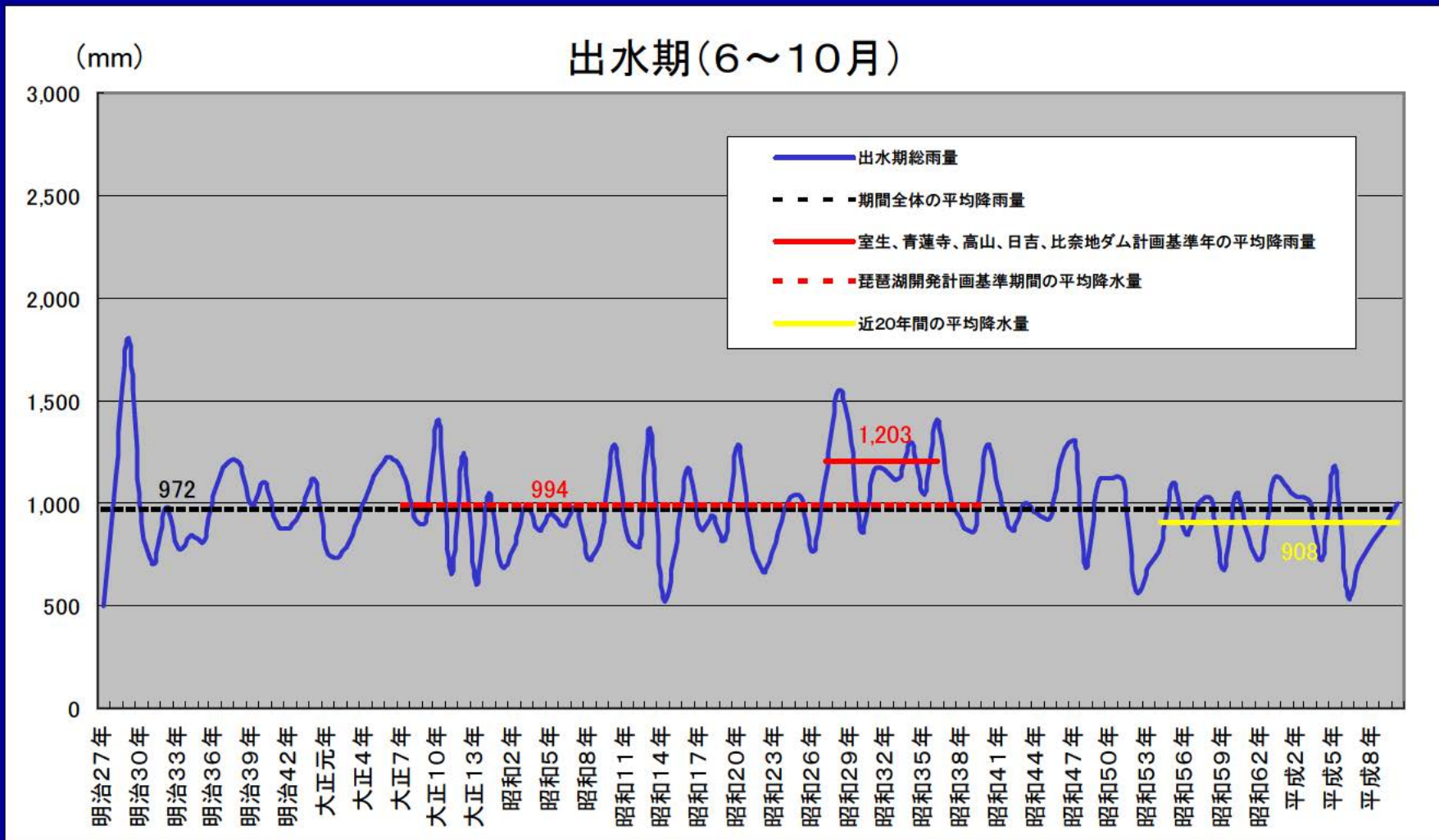
2. 季別降水量の変遷

1. 年降水量の変遷



2. 季別降水量の変遷

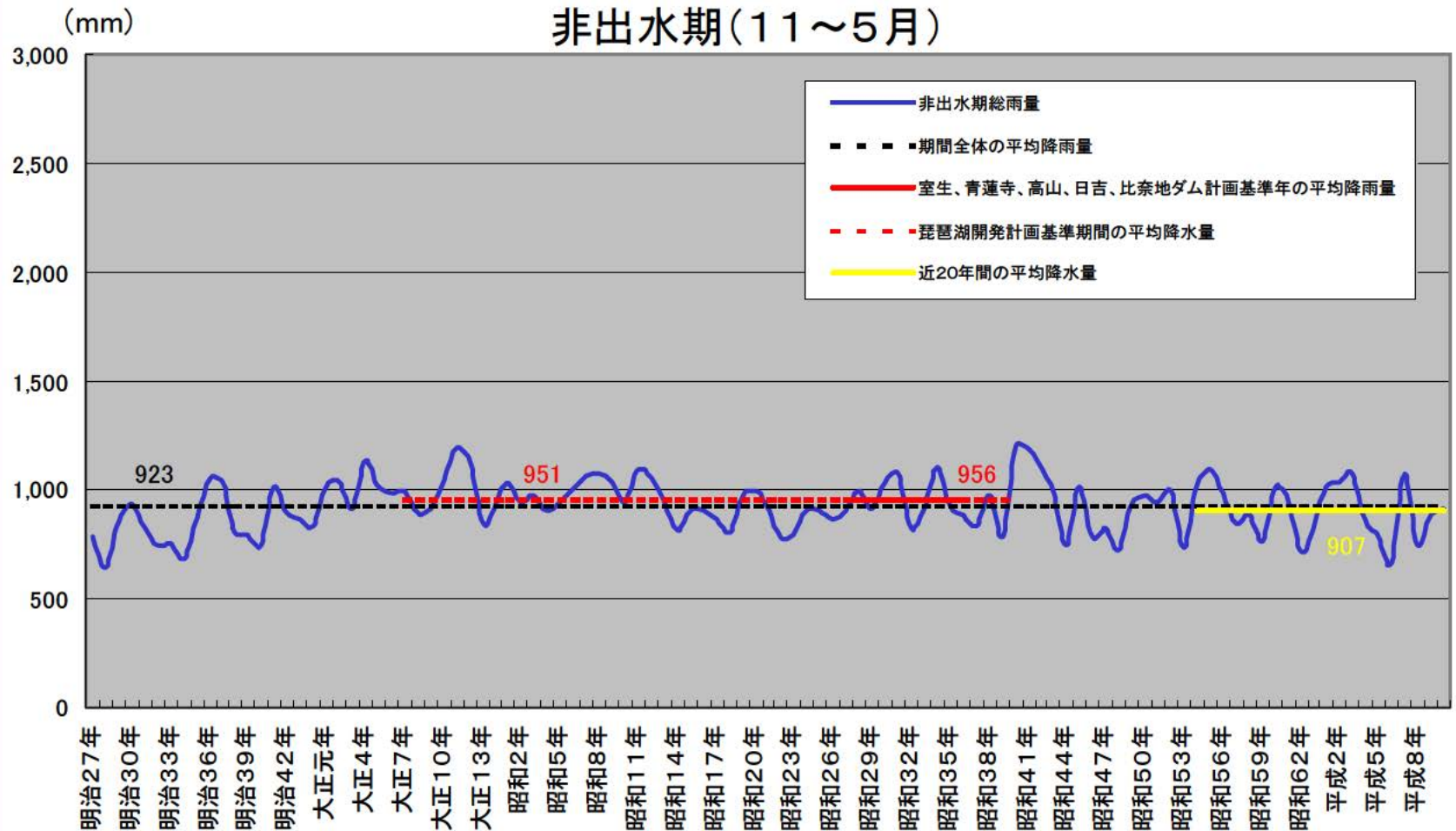
2.1 出水期



2. 季別降水量の変遷

2.2 非出水期

非出水期(11～5月)



第2節 水供給 (確保) 能力

1. 計算条件
2. 現行施設での確保水量 (計画値)
3. 安定的に確保できる量 (都市用水)
4. 近年30年間の確保可能量
5. 年間降雨量と確保可能量の関係
6. 取水実績と確保可能量の関係

1. 計算条件

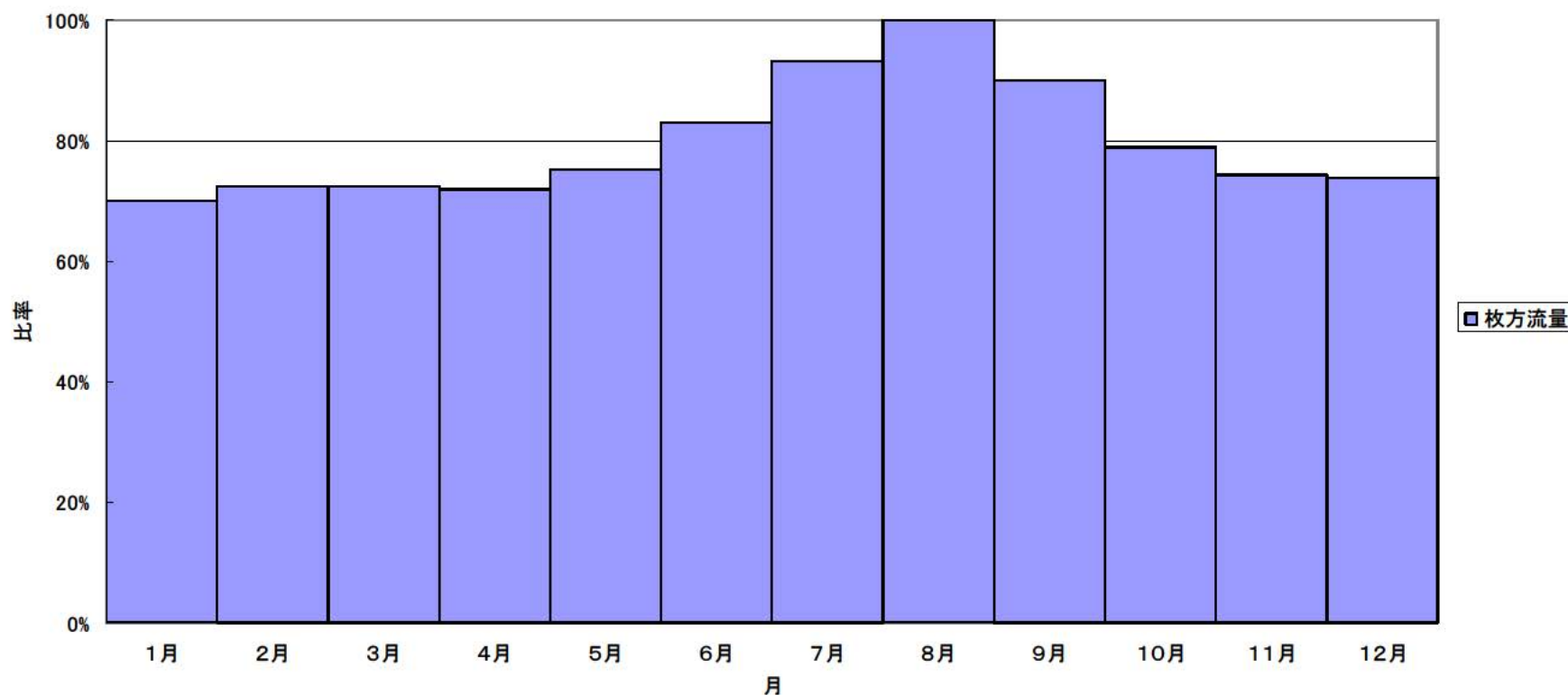
- 琵琶湖総合開発後の琵琶湖運用を前提
- ダム等の施設は、現時点で完成しているもの
- 当時の気象条件で、安定的に確保（供給）できる水量を算定
- 計算は、昭和44年～平成10年の30年間
- 淀川下流の都市用水（上水＋工水）の確保量を算定
- 維持流量は、先取り（確実に確保）
- 農業用水は、都市用水と同等の扱い

1. 計算条件

年間の水需給パターン(枚方)

(m³/s)

淀川本川の月別水利用パターン



2. 現行施設での確保水量 (計画値)

淀川下流域の都市用水 (上水+工水) の確保水量は、
 $95.548\text{m}^3/\text{s}$

3. 安定的に確保できる量 (都市用水)

最小は、昭和53～54年で、 $64.412\text{m}^3/\text{s}$

次は、昭和61～62年で、 $71.679\text{m}^3/\text{s}$

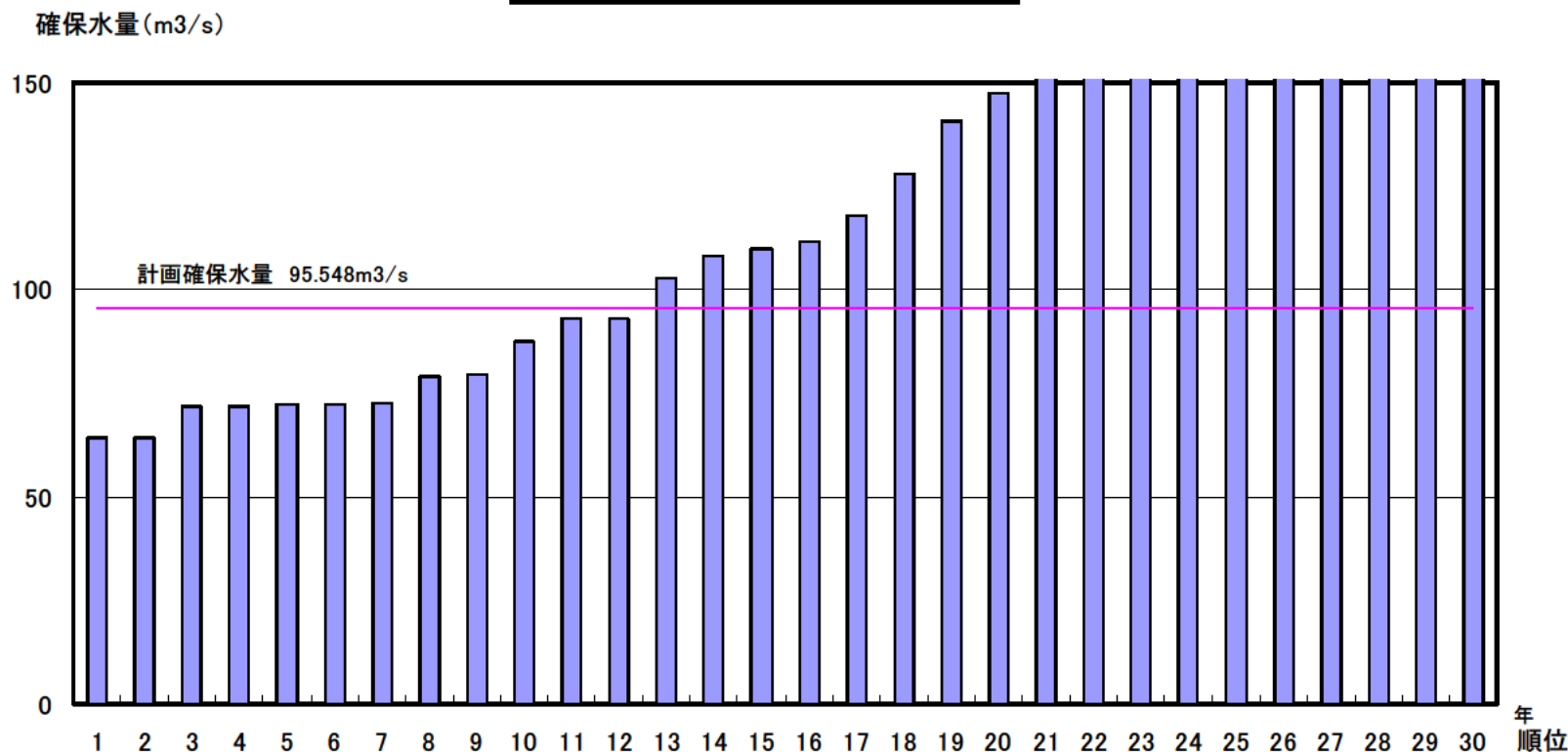
昭和59～60年で、 $72.278\text{m}^3/\text{s}$

平成 6～ 7年で、 $72.657\text{m}^3/\text{s}$

30年間の内、12年間は計画確保水量が確保できない状況

4. 近年30年間の確保可能量

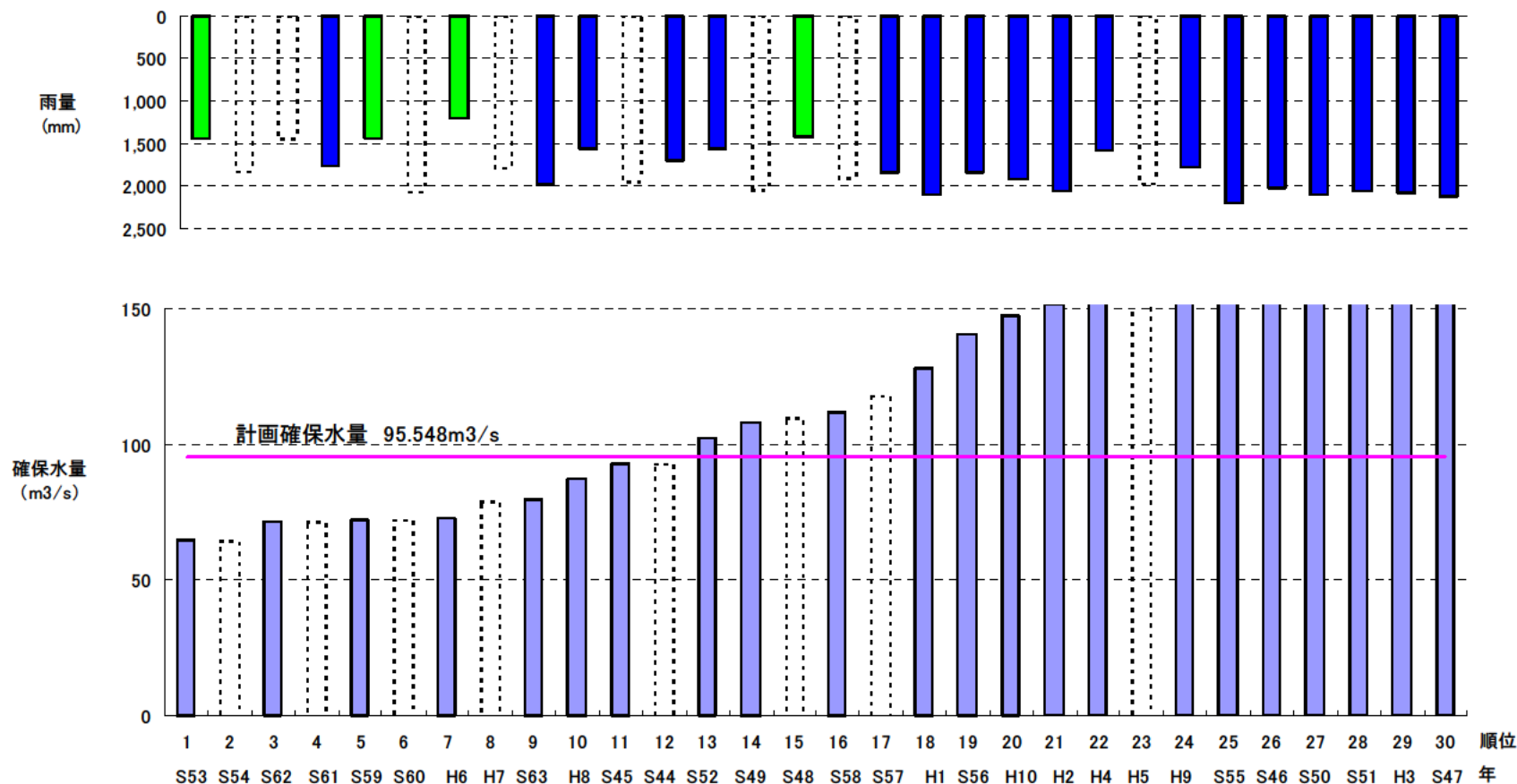
淀川水系確保水量順位(近30ヶ年)



淀川水系現行施設の確保可能量順位(昭和44年～平成10年)

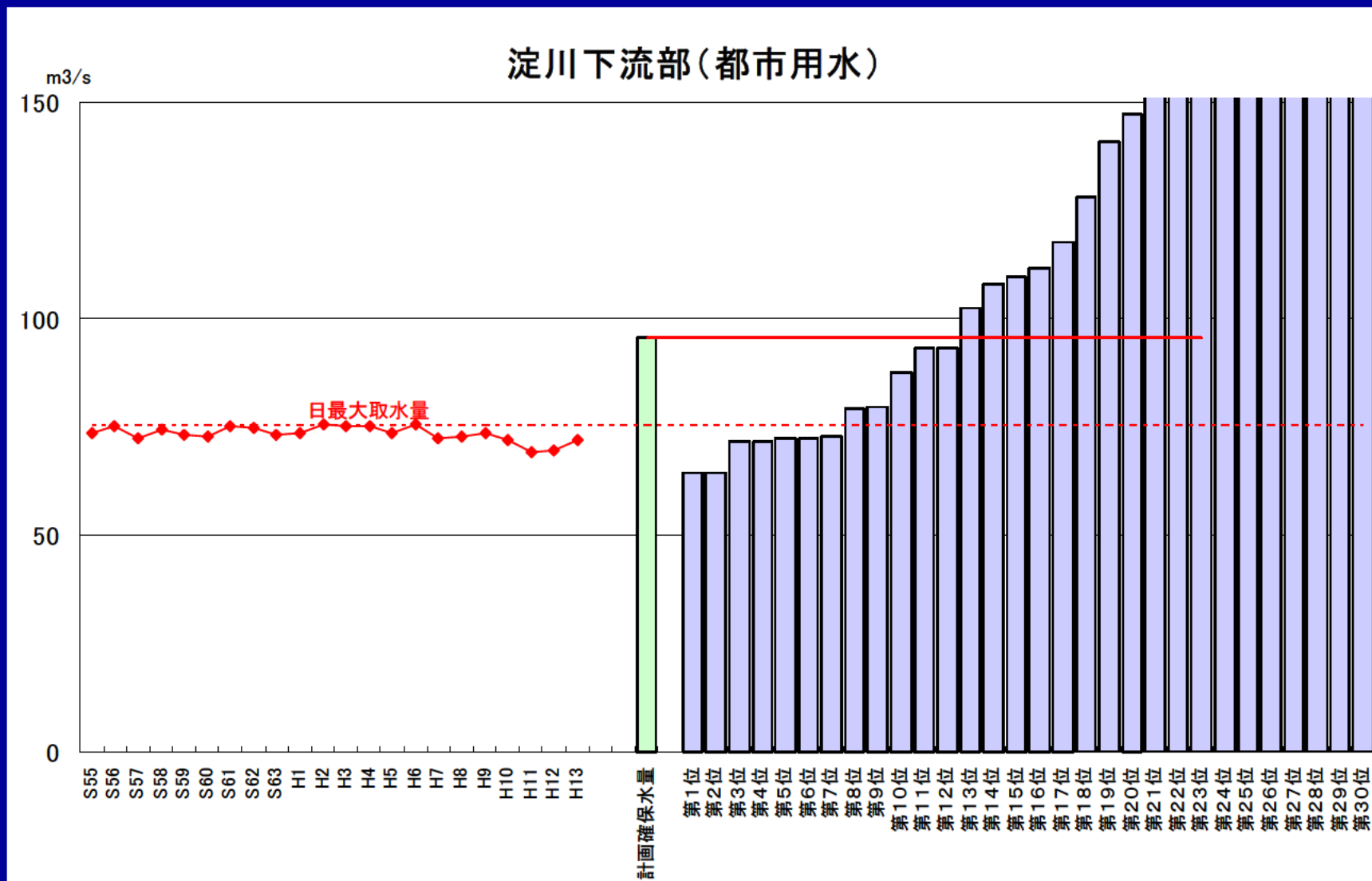
5. 年間降雨量と確保可能量の関係

淀川水系確保水量順位(近30ヶ年)【年間総雨量】



※ S53-54、S61-62、S59-60、H6-7、S44-45、S48-49、S57-58、H4-5については、翌年にまたがる濁水

6. 取水実績と確保可能量の関係



6. 取水実績と確保可能量の関係

